

建築士交流セッションC

生活者と繋がる建築士会を目指して
～これからの建築士像を考える～

- 会場：佐賀市総合体育館(小競技場)
- 日時：平成22年10月22日 13:00~15:00
- 参加者：約240名

建築業界を取り巻く状況の変化に対して、私たち建築士はこれらの変化にただ対応するだけでなく、生活者の求めるものは何かを明確に理解し、さらなる対策を考えていく必要があります。

そのためには、生活者から見える建築士「社会と繋がる建築士会」となり、また、安心して生活ができる環境を守るために、資格者として建築物の質の担保を行うこと、まちづくりへの積極的な協力を行うこと、これらに関して生活者と共に考える機会を多く設けることなどが重要であると考えます。

そこでこのセッションCでは、個人として、また組織として「生活者と繋がる」建築士会となるために、さまざまな取り組みについての手法を、建築士会、全国青年司法書士協議会からのパネリストを交え討論しました。

最初に高野壽世氏(CPD・専攻建築士制度委員会委員長 北海道士会会長)の基調講演を聞き、そのあとに、連合会大石佳知青年委員長の進行のもと、会場アンケートを取り入れながら、連合会青年委員会主催によるパネルディスカッションを行いました。

建築士交流セッションD

人と繋がる、仕事に繋げる、建築士からの情報

- 会場：佐賀県総合体育館(剣道場)
- 日時：平成22年10月22日 13:00~15:00
- 参加者：約220名

田中運営部会員の司会によりセッションがスタートしました。鈴木部会長の挨拶に続き、三井所清典氏(住宅クラウド・エクセリューション会長/連合会副会長)により住宅クラウドの概念について説明があり、続いて下記の2講演を実施しました。

講演1：住宅業界初「クラウドCAD提供サービスの実現 Net-DigiDのご紹介」/日本ユニシス・エクセリューションズ(株) 宝田弘二氏

講演2：「BIMツールを利用した設計の情報共有 OPEN BIM」/グラフィソフトジャパン(株) 笠松哲司氏

クラウドにより、少ない初期投資費用で最新のソフトを使える環境が整い始めていて、JWWに見られるように、多くの人が同じソフトを共有することによって容易にデータ交換が行えるようになります。不況の中、初期投資が少ないのは、中小企業にとって大きな武器になり得ると思います。私も15年程前、図面を手描きからCADに切り替えたときは大変でしたが、今また大きな波が来ていると感じました。

3次元CADでの現場管理は興味深いものでした。2次元の図面は



CPD・専攻建築士制度委員会委員長高野壽世氏による基調講演



赤、青のパネルを使った会場アンケートの様子

- 基調講演「オープン化された継続能力開発と専攻建築士制度」について

上記のタイトルで高野委員長より、制度運営6年間の経過報告と次の3つの視点からお話いただきました。

1. CPD・専攻建築士制度に欠けているものについて
2. オープン化に向けた取り組みについて
3. 北海道での専攻建築士PR助成制度の内容について

- パネルディスカッション(パネラー4名、コーディネーター1名)

高野委員長の基調講演の内容を踏まえた上で、パネリストとして山口雅彦氏(長崎県CPD・専攻建築士委員長)、水谷公孝氏(全国青年司法書士協議会)、松尾大地氏(京都建築士会青年委員長)の3名と、高野氏、コーディネーター役の大石青年委員長による討論がパネルディスカッション形式で開催されました。

赤、青のパネルを用いたイエス・ノー形式のアンケートで、CPD・専攻建築士制度についての問題や、活動あるいは活用の仕方についての意見が出て、会場を巻き込んでの賑やかなセッションとなりました。

「生活者と繋がる建築士会を目指して」というテーマに、さまざまな視点より多くの意見が出されました。

(セッションC部会 中村信敏)



鈴木長則・セッションD運営部会長と出席者

分散しているのわかりづらいものです。また建築関係者やベテランでないと敬遠されがちですが、3Dでは、素人の方(施主)にもわかりやすく、図面の理解度が上がります。また、現場では、思い違いや間違いに気付きやすくなり、ミスを大幅に削減して品質を上げるための有効なツールだと思います。

入場者数は220名を超えましたが、記念講演とも重なる時間で、最後まで参加された方は少なかったですが、情報というテーマは、情報環境の劇的な変化により、セッションには不向きになってきました。大会で情報を得るのではなく、ネットで情報を取りに行く時代になったんだとつくづく感じました。大事ではないという意味ではなく、ネットの普及と発展により、個人で情報を取得できる環境が整ってきたということです。それは、情報を取得しなければ、遅れてしまうということでもあります。ぜひ連合会や各ソフト会社のWebを頻繁に訪れてみてください。

最後に、連合会のセッションD企画部会の方々には、前日から会場入りをしていただき、会場設営アドバイスや進行リハーサルを行っていただきました。また、4月の準備段階から親交を深めていただいたことに深く感謝します。

(セッションD担当 八頭司美紀)